

第77回 市民公開講座 皮膚科



Tokyo Medical University Hospital



皮膚で分かる内臓疾患 ——皮膚は内臓の鏡——

解説 みつはし よしひこ
三橋 善比古 皮膚科 教授



「皮膚は内臓の鏡」ということわざがあります。この言葉通り、皮膚を見ることで体内で起こっているさまざまなことを知ることができます。

皮膚の病気

皮膚に異常があらわれることで、内臓に何か問題が起きているのではないかと不安に思われる人が多くいらっしゃいます。「皮膚は内臓の鏡」ということわざを、多くの方が無意識のうちに普段の健康管理の指標にしていることがわかります。実際、内臓の病気が皮膚の病変としてあらわれるものを「デルマドローム」といいます。この「デルマドローム」は悪性腫瘍や糖尿

病をはじめとしたすべての病気にみられますが、もとの病気と直接関係した皮膚病を「直接デルマドローム」、直接関係ないものを「間接デルマドローム」といいます。また、皮膚に何らかの症状があらわれれば必ず内臓にも問題があるかといえばそうとは限りません。

まずは皮膚に変化をもたらす、代表的な疾患とその特徴について解説していきましょう。

悪性腫瘍でみられるデルマドローム

●皮膚筋炎 —— 肺がん

皮膚が赤くなったという症状から、肺がんの早期発見ができた患者さんの例です。

3か月前から顔と手足から体中へと皮膚がだんだん赤くなってきた女性(66歳)は、「お日様に当たったら顔が赤くなって痒い」と来院されました。よくお話を聴くと、2週間前から手足が痛く筋肉の炎症が起こって、倦怠感も訴えていました。この症状は特徴的で、皮膚だけの病気ではありません。早速入院してCT検査を行ったところ、肺がんを早期に発見することができました。皮膚にあらわれた病気は皮膚筋炎といい、内臓の悪性腫瘍の時にあらわれ、特に肺がんがもっとも多く発見される、内臓からのメッセージといえます。

●バゼー症候群 —— 扁平上皮がん



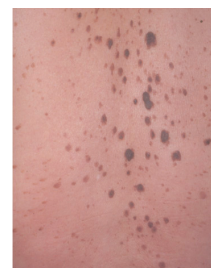
皮膚の症状から内視鏡検査を行い、食道がんが発見された患者さんの例です。

77歳の男性の患者さんは、受診の2年前から角化性紅斑と呼ばれる皮膚が赤くカサカサする症状が手足にあらわれるようになりました。何をやっても治らず、そのうち顔も赤くなってきました。これはバゼー症候群(腫瘍随伴性肢端角化症)という、扁平上皮がんに伴って生じる症状です。原因となる病気の多くは上気道、咽喉頭、食

道などにできる扁平上皮がんです。この患者さんは食道がんが発見されました。すなわち、この場合も皮膚の症状から内臓疾患が見つけたことになります。この患者さんの手足の角化性紅斑は、それまで他の病院で、皮膚にどんな治療をしても治りませんでした。食道がん放射線治療をしたところ、きれいに治りました。このことから、食道がんと皮膚の症状は関係していることがわかります。

●レーザー・トレラー徴候 —— 胃がん

年齢を重ねてくると誰にでもイボはありますが、これを脂漏性角化症(老人性疣贅)と呼んでいます。1、2個～5個くらいは問題ないのですが、1～2年のうちにこの写真のように背中などに急に増えてきた場合はレーザー・トレラー徴候といって特に胃がんの間接デルマドロームの可能性もあるので、よく調べる必要があります。



悪性腫瘍のデルマドローム

●デルマドローム ↔ ●合併する悪性腫瘍

皮膚筋炎	肺がん、胃がん
バゼー症候群	咽喉頭がん、食道がん
黒色表皮腫	胃がん
紅皮症	胃がん、肺がん
レーザー・トレラー徴候	胃がん
スイート病	白血病
腫瘍随伴性天疱瘡	悪性リンパ腫
後天性魚鱗癬	悪性リンパ腫
壊死性遊走性紅斑	脾がん

糖尿病でみられるデルマドローム

脂肪類壊死



脂肪類壊死では、脛の前面の皮膚が赤くゴワゴワしてきます。現在は血液検査も発達しており、早期に糖尿病の診断がつくので、この症状によって糖尿病が初めて発見されることはありませんが、昔はこうした症状の有無で糖尿病を見つけていました。

浮腫性硬化症

肩や首の周辺がガチガチに硬くなって、首が回らなくなります。糖尿病患者さんに出てくる皮膚症状のひとつで、糖尿病の直接デルマドロームです。



皮膚癢痒症

これは湿疹と痒みが起こるもので、糖尿病でなくてもあらわれる症状です。ただ、糖尿病の人の中ではこの症状をもつ人はたいへん



多くいらっしゃいます。これは糖尿病による糖代謝不良によって皮膚が乾燥するためにあらわれるので、きちんと内服治療を行い、処方された軟膏を塗ったりすることで症状をコントロールできます。

その他のデルマドローム

汎発性帯状疱疹 —— 免疫不全

急に肌に小さい水泡ができて痛みを伴う帯状疱疹は、経験した人も多いことでしょう。これ自体はデルマドロームではなく、健康な人でもなり得る病気ですが、多くの人は一生に一度しかかかりません。しかし、体力が低下してくると何回もかかることがあります。また、普通の帯状疱疹は水泡が神経に沿って帯状にあらわれますが、汎発性帯状疱疹は全身に水泡ができます。これは、帯状疱疹の原因となるウイルスが血液中に入り込んだため、広範囲に広がるのです。そして、エイズなどのように体の免疫力が低下してくると汎発性になります。

皮膚だけに病変がみられる皮膚病

蕁麻疹

多くの人イメージする蕁麻疹は、アレルギー性蕁麻疹でしょう。これは食べ物などのアレルギーによって起こる蕁麻疹です。蕁麻疹は、それぞれの部分は15～20分で消え、別の所に新しい蕁麻疹が出るのが特徴です。蕁麻疹にはいろいろな種類がありますが、普通の蕁麻疹は内臓の病気とは関係ありません。

運動誘発性蕁麻疹は、運動の最中に具合が悪くなり倒れて体には蕁麻疹が出ているというものです。運動と蕁麻疹の関係の詳しい機序はまだわかっていません。食物と運動の組み合わせで蕁麻疹が

原因による蕁麻疹の分類

1. アレルギー性蕁麻疹（主としてIgE抗体による）
2. 運動誘発性蕁麻疹（運動で誘発。IgE関与?）
3. 寒冷蕁麻疹（低温刺激による）
4. 温熱蕁麻疹（高温刺激による）
5. 人工蕁麻疹（物理的圧迫による）
6. コリン性蕁麻疹（アセチルコリンによる。精神的）
7. 日光蕁麻疹（日光光線による）
8. 色素性蕁麻疹（肥満細胞増殖による）
9. 接触性蕁麻疹（接触アレルギーが関与）
10. クインケ浮腫（補体が関与）
11. 蕁麻疹様紅斑（アルサス反応が関与）
12. 蕁麻疹様血管炎（血管炎による）

出ることもあります。なかには低温や高温で蕁麻疹が出る人など、温度も影響します。さらに、人工蕁麻疹といい、ひっかいた部分がミミズ腫れのようにになってしまうものもあります。

その他、試験前など精神的に緊張した時に小さいブツブツが出るコリン性蕁麻疹、日光に当たったら出るといった、蕁麻疹を起こす肥満細胞が増えて出てくる色素性蕁麻疹等があります。これは子どもに多く、茶色くなった皮膚をこすると赤く蕁麻疹が出て、10分程度で消えてしまいます。

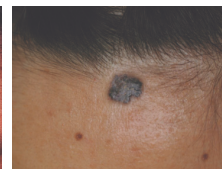
普通の蕁麻疹は内臓と関係ありませんが、内臓と関係する特殊な蕁麻疹もあります。同じ場所に何日も出ているクインケ浮腫や蕁麻疹様紅斑などです。一見、蕁麻疹のような蕁麻疹様血管炎という病気もありますが、血管炎という別の病気なので、内臓の検査が必要です。

皮膚がん

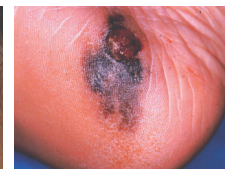
皮膚がんにはたくさんの種類がありますが、代表を3つあげます。



有棘細胞がん



基底細胞がん



悪性黒色腫

比較的多く見られ、放置しておくと転移する有棘細胞がん、非常に多くみられるが転移せず、放置すると皮膚の奥深くに入り込んで骨まで溶けてしまう基底細胞がん、足の裏に多く、小さくても転移する悪性黒色腫です。診断は、皮膚の一部を採取して組織検査を行います。最近ではダーモスコピーという機器を用いた検査も行われています。これを使うと皮膚の表面だけでなく、皮膚の中の状態がわかり、がんの種類によっては早期診断できます。最初にこれで調べ、疑わしい場合には組織検査で確認します。

おわりに

皮膚には内臓疾患を含めていろいろな情報が含まれていますので、皮膚に何らかの症状がある場合はぜひ皮膚科にいらしてください。そうすることにより、不必要に多くの時間を割くことなく、最小限の検査に減らすことができるかもしれません。皆さんには、皮膚からの情報を大切にいただき、私たち皮膚科を上手に利用して、健やかに過ごしていただくことを願っています。